

校長漫筆記

「制服の自由化」に込めた、 真の自由と自律への挑戦



新設校の本校が掲げる「制服の自由化」。
これは、単に「好きな服を着て楽をすればいい」という安易なメッセージではありません。

むしろ、これまでの決められたルールに従うだけの生活よりも、ずっと高度で、知的な挑戦を生徒たちに求めています。

私たちが教育の柱に据える「自由」と、混同してはならない「放任」の境界線。自由とは自律を土台に責任と敬意を伴うものであり、放任は単なる無秩序です。

そこで、本校における自由は、以下の3つの柱によって守られます。

① 安全と人権

命に関わること、他者の尊厳を傷つけるいじめや差別。他者の自由を侵す行為は、自由ではありません。

② TPO（目的）の思考

制服がないからこそ、「今、この場で自分はどうあるべきか」を考える必要が生まれます。冠婚葬祭、式典、プレゼンテーション。場面に応じた装いや振る舞いを自分で判断する力こそが、社会で生きる知恵となります。

③ 責任の引き受け

選択には必ず結果が伴います。周囲の信頼を得ることもあれば、失敗して信頼を損ねることもあります。その結果を自分事として受け止め、学びにつなげます。

私たちは、教育者です。「自由だから何でもいい」という誤解には、毅然に、しかし丁寧に対話を試みます。

「なぜその行動を選んだのか？」生徒の主張に論理的な筋が通っているなら、既存のルールをアップデートすることも厭いません。これこそが本校のスローガン「Go Beyond（自己超越）」の体現です。

私が生徒たちに、そして先生方や保護者の皆様に伝えたい言葉があります。

「君たちを信じているから、自由にするのはではない。自由の中で失敗し、葛藤しながら『自分を律する力』を身につけてほしいから、ルールを君たちに預けるのだ」

生徒を信じて放置するのではなく、彼らが自律した大人へと歩んでいけるよう、私たちは粘り強くその横を歩きます。